

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

持家なし借財はなしローンなし 憂いもなしに逝くこと
できる
長野市 大沢喜美子

△評▽95歳の作者。介護していた夫を最近亡くし、ま
すます熱心に投稿を続けている。「憂いもなし」は
覚悟の言葉と思う。

報われない努力だっという痛みすら抱きしめながら生きる
と決めた
四万十市 佐竹 紫田

△評▽30代の作者。努力が報いられるかわからない社
会。下の句が痛切に胸に迫る。

本棚に見つけた若き日の迷い「辞職します」と書いた便
箋
川西市 那須三千雄

祖母われに名のあることを五歳児は初めて知りて驚きに
けり
奈良市 片山 恭子

さよならとアラの容器を捨てたけど孫はまたねと再生符
ってる
大阪市 吉田 昌之

見上ればスイートピーのやうな空でできたの傷つむ
柔さの
横浜市 谷口 菜月

アラバスクを追いかけるとち降りてゆく冬薔薇の底へつ
づく階段
東京 碓井やすこ

ラーメンが来てもスマホは閉じぬままマルチタスクの令
和の人々
鳥取市 中之島 潤

流行語大賞のその圏外に暮らしています地方の老人
西海市 まえだいっき

癖のある見慣れた文字に煩悩も雪国からの旅の絵葉書
東京 水原 理郁

米川千嘉子 選

負けたってよいが闘い続けるとコーチのように死の商人
が
京都市 寺西 和史

△評▽あくまでも撤退を許さない鬼コーチのように戦
争でもうけよととする武器商人がいる。だが、そもそ
ろ状況が動くか。

厨ごごちよと中斷二階へと国際宇宙ステーション見
えた
奈良市 梅本 幸子

△評▽日本の実験棟「きぼう」もそこに。肉眼で見え
るのだ。初句が効いている。

頭下げなきや謝れないし飯食えない君にキスもできない
広島市 凡

自転車漕ぐ間にできる夕食よ頭の中では湯気まで立て
て
名古屋 外山 雪

扇のようなまいたけ天にひっそりと隠れているがつやつ
やの蕎麦
長岡市 三月 とあ

退職で今日が最後のひとに空のペットボトルを振り部屋
を出る
東京 浅倉 修

三編の小説書いた一年と友発表す年賀状にて
大阪市 岡田マチ子

後れ毛でSを描いて御機嫌の次女は十五でもうすべ受験
枚方市 坊 真由美

昼寝して夜通し泣いて昼寝する帰省の孫の不安を思ふ
霧島市 秋野 三歩

燃えるんじゃないやなくて燃やすのこのゴミはママのお人形さん
をやめるの
川崎市 二宮 珊瑚

水原 紫苑 選

夜の雪はしずかな鳥で羽に抱く貨車も手紙も銃も眠った
東京 碓井やすこ

△評▽何もかも眠らせる大きな鳥は美しい。それはど
こか死に似ている。この鳥はいつかははたたくのかもし
れない。私たちの死後へ。

冬の首は無数にあって本物は椿あるいは山茶花のなか
りガリアルである。
東京 珠海 ユラ

△評▽「椿あるいは山茶花」という微妙な幻想の重な
りガリアルである。
京都市 よだか

外はまだ薄暗く囁きあえば天国寄りの言語を持って
純白の百合の香りに包まれて乾いた鉄は戸惑うばかり
戸田市 水沢わさび

生命の源に水 降り注ぐ雨滴に空は深くためらう
神戸市 入間しゅか

裏庭のない一生の祝祭は東の窓へ水仙一挿し
札幌市 橘 晃弘

朝露の庭で裸足で蝶を追うわたしという名の流刑地を
出で
宮古島市 塩見 伴

雲間から天使の梯子が降りてきて鳥の絡まる廢屋が浮く
枚方市 久保 哲也

マフラーの先をふんわり引っ張ってわれを散歩に連れ出
す地球
四日市市 早川 和博

灯台の内をみたしている闇に私をそばだてる何がある
平塚市 芝澤 樹

歌壇選者の加藤治郎さんは都合によりお休みし、他の選者3人で
選歌を行います。ご了承ください。次回は11日に掲載します。
(おことわり)

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます